

防ハ、柳原土堤、神田駿河臺以西ノ堤防等ナル可シ。

當秋<sup>○元和六年</sup>初、神田御堀普請、惣奉行松平右衛門大夫<sup>○正綱</sup>土手普請奉行阿部四郎五郎也。

十一月廿五日<sup>○元和六年</sup>神田臺御堀普請御見物に御出。——續年錄記

此月<sup>○元和六年九月</sup>○中畧。此秋はじめより神田臺の下に堀をうがち、堤を築かしめらる。堀の方は松平右衛門大夫正綱奉行し、堤は阿部四郎五郎正之奉行す。廿五日<sup>○元和六年十一月</sup>神田臺へならせられ、溝渠疏鑿の地を親巡し給ふ。

——台徳院殿御實紀

附記  
柳原堤

〔附記〕柳原堤

往古江戸繪圖柳堤ト有リ、元和六年ノ役之ヲ築ケル者歟。當時堤防ノ外側ニ町家有ルコト同繪圖ニ見ユ。

柳原封壇

筋違橋より淺草橋へつゞけり。そとの神田川也。むろしの柳ありしを享保の初年此處へ成せられし比、柳原といへ、柳を植へきよし、鈞命ありて植られしあり。<sup>江戸志</sup>

正保中江戸圖を見るに、この柳原のつゞみの邊、坊主衆多くおりしよし、

市街恢弘時代